9/19
毎日

若者は諦めない

民主主義は終わらない

18日夕、SEALDs（シールズ＝自由と民主主義のための学生緊急行動）は国会正門前で、「アベはやめろ」「強行採決絶対反対」「野党はがんばれ」とコールを響かせました。14日から週明け、行動を続けてきた若者たち。声をかすれさせながら、強硬な政府の姿勢に警鐘をかなでる…。「この行動で最後になると思いますか」と問いかけると、いい終わらないうちに皆、首を横に振ります。「あきらめない」と一。

「安倍さん、強行採決しても国民はすぐ忘れると思っているようですが、私たちをなめないでください」。日本女子大学の香瑠（かりん）さんはマイクを握り、国会に向けてスピーチしました。

「暴力や利害で従う人たちは金の切れ目が最後の切れ目です。ですが主体的に自由意思で動く私たちは思い立ったらいつだって登場します。今日がだめならあした、あしたがだめならあさって。民主主義を存在させるのは私たち一人ひとりです」

週明け先頭をきってコールし続けたティーンズソウルのヤザワさん＝高校3年生＝はかすれた声で、しかし力強く話します。

「安倍政権の態度、強行採決の様子は想像以上にひどすぎて驚きました。でもあきらめるつもりはさらさらありません。民主主義は終わらせるつもりもないし、もし終わったなら始めるだけ。やることは決まっている。声を上げ、廃止を求め続けます」

若者たちは全国から駆けつけました。

「沖縄県庁前でも若者が声を上げています。戦争法案にも辺野古新基地建設にも反対しつづけます。あきらめない」。そう語るのは沖縄で行動するシールズ琉球の元山仁士郎さん（23）＝大学4年生＝です。

「いままですっと沖縄はむき出しの権力の横暴にさらされていた。それが今は国会前、そして各地で声を上げている人にも向けられていると感じます。政府は誰の声を聞きながら政治をやっているのか。ここで終わりではありません。次はどうしていくのかを考え、行動する」

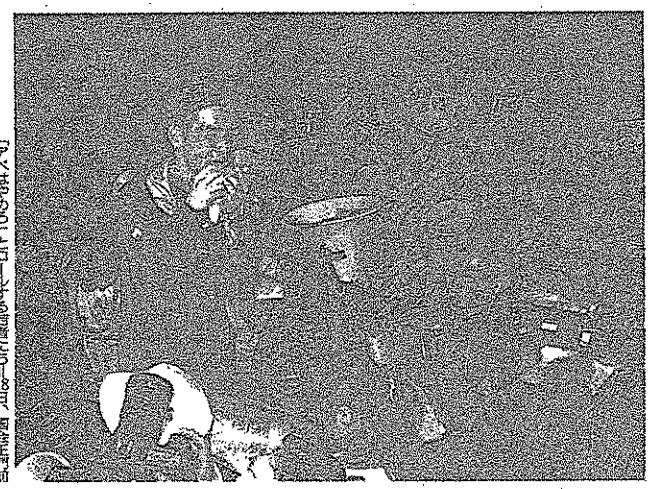
シールズ鹿海として戦争法案に反対し、7人の仲間と国会に来た東海真平さん（23）＝大学院1年生＝は「ひとりでは無理だけど、こうしてみんなで集まって抗議することで、国を動かしていることを実感しています」といいます。「同じように反対している同世代の友人も全国にできた。地元で、全国で、おかしいことにはおかしいといい続け、行動し続けます」

ステージには学者も多く駆けつけ、マイクを握りました。東京大学名誉教授の樋口陽一さんは「日本社会の骨組みが壊されようとしている。しかし、壊そうとしても壊れないものがすでにできています。これから始まるんだ」と訴えました。

夕方から、翌日の未明まで連日続いた霞ケ関の抗議行動。若者たちの足元を見ると、コンビニで購入したと思われる菓子パンが大量に置かれています。抗議が終わると、1時間ほどゴミ拾いをしてから帰ります。

「ずっとがんばってきたのに、強行という形で戦争法案を通す政治に、踏ん込まないといったらウソになる」。そう語るのはシールズの本間信和さん（20）＝大学3年生＝。その表情に暗さはありません。

「そろそろ大日本帝国の亡霊にはとどめをささないといけません。終わりませんよ。僕らはあと60年ぐらい生きないといけないし、死ぬまで主権者です。戦争を経験していない世代として、どう前の世代の思いを引き継いでいくのか。それは僕らの世代だからこそ向き合い、やっていけることだと思う。どんな状況になっても、あきらめることはありません」



「アベはやめろ」とコールする若者たち＝18日、国会正門前

我々はずっと主権者だ

戦争法案廃案を訴えて抗議する人たち＝18日、国会正門前

戦争させない9条守れ

最後まで野党と共に

総がかり行動 国会前で集会

戦争法案の成立をなんとしてもくいとめようとがんばる野党を励ます人たちで18日も、国会周辺は埋め尽くされました。「総がかり行動実行委員会」が呼びかけた午後4時半の正門前集会は、「強行採決絶対反対」「安倍やめろ」と書いたプラカードをもった人たち一でごったがえしました。衆院本会議での内閣不信任案の審議の真っ最中に、「戦争させない」「9条壊すな」とコールを続けました。

と、「野党がんばれ」との声が飛びました。

民旦議員は「安倍政権は国会や国民に語るべき言葉がなくなった。多くの人が自分の言葉で反対し、民主主義が根付いていることに恐怖している。廃案しかない。最後までたたかおう」と訴えました。

日本共産党の民旦孝太郎、社民党の又市征治、民主党の福山哲郎の各参院議員がかけつけて法案成立阻止へ徹底抗戦すると表明する

福山議員は「雨であろうと、雪であろうと、たくさんの人が国会にいるおかげで僕らはたたかえています。野党の表決権まで奪った強行採決は無効と決まっている」と話しました。

主催者から「最後まで一緒にたたかおう」の呼びかけに、「オー」「そうだ」の声が上がりました。

主催3団体の代表がそれぞれあいさつ。「一定の壁や部分でなく、この社会のたくさんのひとたちが参加している。東京だけでなく全国でも行動している。この多様で重層的なとりくみが特徴だから強いんだ。だから安倍政権はふるえあがっている。安倍首相と谷垣氏（禎一・自民党幹事長）はここにきて市民の声を聞け」の訴えが続きました。